

1	審議会名	丸子地域協議会
2	日時	平成30年6月27日(水) 午後1時30分から午後2時50分まで
3	会場	丸子地域自治センター 4階 講堂
4	出席者	小澤厚会長、内堀敏高委員、大神文子委員、斎藤明委員、齋藤ゆり子委員 竹鼻麻希江委員、富岡太刀夫委員、永井静江委員、中村勝彦委員、成澤和美委員 西沢久委員、御堂島明委員、宮岸喜恵子委員、宮坂和雄委員、山岸嘉幸委員 山本幸恵委員 【欠席委員4名】
5	市側出席者	手塚丸子地域自治センター長、滝沢丸子地域自治センター次長兼地域振興課長 青木丸子地域振興政策幹兼丸子地域教育事務所長、鈴木産業観光課長、堀内建設課長 藤極丸子・武石上下水道課長、深町丸子学校給食センター所長、丸山丸子消防署長 (事務局)真壁地域振興課長補佐兼地域政策担当係長、竹花主査、緑川主査
6	公開・非公開等の別	公開 ・ 一部公開 ・ 非公開
7	傍聴者	1人 ・ 記者 2人
8	会議概要作成年月日	平成30年7月10日

1 開会 (滝沢センター次長)

2 あいさつ

3 協議事項

(1) 上田市丸子地域自治センター耐震化工事について
担当課より説明した。

(以下質問)

(委員) 第6期の意見資料を見るとかなり決まっているが、新しい協議会になって何を聞きたいのか。
(地域振興課) 内部の話になりますが、第6期の意見を基に実施設計に係る話を本庁の中でしましたが、
その中で他の市民の意見を聞いたかということも指摘され、地域協議会も新しくメンバーも替わり、
庁舎内の耐震化工事に対する合意が得られているのかということもありまして、再度地域協議会の皆
様と来庁される皆様の意見を聞いて自治センターとしての耐震化工事並びに改修工事にあたっての
意思統一をしていきたいということでご意見をいただきたいということです。

(委員) 第6期の延長で意見を言う必要はないということか。

(地域振興課) 全体会の継続審議ということで庁舎の耐震化工事ということも載っておりますので、第
6期の付帯意見なら付帯意見として尊重しますが、第7期の皆様の意見も被らない意見がありまし
たらお願いします。

(委員) 現在丸子自治センターがこんな大きな規模がいるのか、有事の際を考えてもこれを全部耐震化
する必要はないのではないかと思う。なぜかと言うと維持費がかかる。前回の協議会で少子高齢化
25年問題を討議したが、この耐震化は25年問題を全く考えていない。庁内の窓口をいくつか廻
るが職員が減っている、机もあるがいない、だからこの規模が本当に必要なのか、総工費がいくら
掛かるか分からないが、その辺をもっと検討してもらいたい。時間がないからということで進める
ことはしないでいただきたい。

(地域振興課) ご意見として伺って反映させていきたいと思います。

(会長) これでまとまって、どういう経過で実施になるのか。

(地域振興課) 第6期と第7期のご意見を入れながら庁舎の耐震化工事基本計画にまとめ、市政経営会
議にかけ合意を得ていくという段取りになります。

(会長) まとまったら報告があるのか。

(地域振興課) 報告します。

4 報告事項

(1) 「上田市千曲川×依田川地区かわまちづくり計画」の国土交通省登録について
担当課より説明した。

(以下質問)

(委員) 合流点は千曲川の水面からどのくらいの高さになるか。

- (建設課) 河川計画は、現在国土交通省で詳細設計を行っておりまして、来月挙がってくる予定です。河川計画ができた段階で皆さんにお示しをしていきたいと思っております。
- (委員) 石井のグラウンドと同じ高さということは、大水が出ると流されるが。
- (建設課) 大石橋上流のグラウンドとマレットゴルフ場の辺りが堤外地で本提の中で、今回依田川の合流地点で、かわと触れ合いゾーンで堤外地ということで本提よりひとつ下がった、グラウンドと同じ高さになりますが、本提の堰堤は集落の団地の高さで、これは最低クリアすると思います。堤防高の所もアスファルト舗装しておりその高さまでは上がってくると思いますが、詳細な高さは河川計画を立てていただいております。
- (委員) 下げないと矢ノ沢川は幅がないから深さを取るしかない、出口が高くなれば大きな落差を作るしかない。実際矢ノ沢川を改修できるのか。
- (建設課) 千曲川と依田川の合流地点辺りで左岸の護岸が流れと逆に千曲川の上流側を向いて護岸が建設され、流れが逆方向になっておりますが、今回その護岸を併せて流れが良くなるように新たに堰堤を築いていく計画で現在進めていただいております。あくまでも千曲川の本流に対して依田川が直角に出ているというより、逆に上流に向いたようになっている所は改修をさせていただいて下流に流れるようにするという国で計画をしております。矢ノ沢川はあくまで県の河川でございますので、今回の計画に併せて先程の住民の皆様から不安の声もある中で何とか矢ノ沢川も改修していただけるように進めていきたいと考えております。
- (会長) 河川用道路というのはどのくらいの道路か。
- (建設課) 河川用道路は詳細なものが出来ておりませんが、東郷橋より上流は依田川に管理道が付いておりますが、それと連動して歩行空間と河川護岸の緊急対応可能な河川管理道を併せて整備する形となりますので、詳細についても追ってお示しさせていただきます。
- (委員) 大石橋、大屋橋の間が川幅いっぱいに流れたのを記憶している。そういう状態の川のままこれだけの施設を作っても逆に危険ではないか。
- (建設課) 大石橋と大屋橋、河川幅が限られた状態でございますが、現在国が河川改修計画で流量計算をした中で、川幅と築堤の高さを計画して示していただくことになっておりますので、どれだけの範囲で整備ができるか、かわまちづくり支援制度を使いながら治水対策も併せて整備して進めたいと考えております。千曲川の本流も右岸側の方は改修されていますが、今回依田川の左岸側は築堤ができていない状態でございますので、依田川との合流が直角な状態で上流に向かって流れている状態ですので、併せて改修することによって治水対策を図っていくという形でこちらもそれに向けて国土交通省と県と協議して安全を図っていきたく思っておりますし、計画について皆様にお示ししていきたいと思っております。
- (委員) 上田市の方は良いが、千曲川は佐久の方から流れてくるので、そちら側ができていないとそこだけやってもどうかと思うが。
- (建設課) 千曲川は、大屋橋までが国土交通省、大屋橋から上流が県の管理となっております。依田川は一級河川で県の管理となりますが、今回河川改修する所は国だけでなく県も関わって改修させていただきます。基本的には河床整備も踏まえてやっていきたいということと、大石橋から上流も国土交通省の河川計画、大屋橋から上流は県の管理となりますので流量計算をした中でそれに耐えうる方法を構築していただけるようお願いして進めさせていただきます。
- (委員) 施工後の施設の管理は、国の予算はないということか。
- (建設課) あくまで国はハード的なことをしていただき、維持管理は自治体や地域の皆様をお願いする形の中でも協議会の中で民間の活力を使いながら、施設を長く維持するための施策を整理していきたいと思っております。
- (会長) 依田川リバーフロントにも繋がるような形に将来的になるか。
- (建設課) 依田川のウォーキングロードが東郷橋までできておりますので、かわまちに親しむ方々が上流へ散策いただいたり、他の施設も連携できればしたいと協議会でも説明して進めているところです。
- (会長) 協議会で協議した内容を、今後地域協議会でも報告されるか。
- (建設課) 今日はあくまで登録された報告をさせていただきました。ご意見いただきました治水対策や施設の維持管の問題もございますので、その都度協議会で協議された内容などをその都度報告させていただきます。

(2) 平成30年度丸子地域自治センターにおける重点目標について
担当課より説明した。

(以下質問)

(委員) 「可燃ごみの削減」の「アレチウリ再資源化4トン」とはどういったことか。

(地域振興課) 担当課長が不在で詳細不明ですが、アレチウリを駆除してそれを火力発電の燃料にするという説明だったかと思えます。

(委員)「可燃ゴミ73トン削減」とはどういう形でやるのか。

(センター長) 手持ちの資料がなくて申し訳ありませんが、上田市ではゴミ減量化基本計画を立てておりまして、平成34年を目標に減量するゴミの量を目標値として持っています、それに合せて丸子地域でも地域の減量化目標を持って取り組んでいきたいと思っております。丸子地域には丸子クリーンセンターがある訳ですが、このクリーンセンターは資源循環型施設の建設が実施されるまで持たせないといけないということで、ゴミの減量化というのでもかなり重要な課題になってきますが、例えば生ごみの削減など可燃ごみの減量化に取り組んでいきたいということで、丸子地域として年間73トンの減量化という目標を立てたということです。

(委員) 上田や真田、東御とかそれぞれの地域はどういった方針を立てているか。丸子だけ73トンの目標を立てているのか、それとも統一して一戸当たりどのくらいと立てているのか。

(センター長) 広域全体でゴミの減量化計画がありまして、その内上田市が何トンという計画がありまして更に丸子地域としてのゴミの減量化計画を目標を立てて73トンにしたということです。真田や武石それぞれの地域で目標を立てているかはわかりませんが、上田市全体に目標があって更に丸子独自で目標を立てたということです。

(会長) 担当者がいないということで詳細については次回説明をお願いします。

(委員) 現在鹿教湯でバイパスを作っているが、新屋にバイパス計画はあるか。

(建設課) 詳細な資料がないので254号線バイパス関係でお話しますと、和子・荻窪・平井でやっています。現状につきましては和子については今年度舗装工事で来年度供用開始になります。平井については今年度用地買収を行い来年度残りのハード事業となります。荻窪につきましては、先日地元説明会がありましてルートも確定し、これでルート変更したことによる詳細設計を県にかけていただいています。平井寺トンネルの無料化は8月25日に決定しておりますし、三才山トンネルも前倒して32年の夏と報道があったかと思えます。新しく作るバイパスについては車道については基本的にはそれなりのものができるのですが、旧道については今後市に移管される形になります。その路線の一方通行とか、そういったことについては地域の皆様の生活がかかっていますので打合せをしないとどういう風に利用されるかということもありますし、バイパスができることによって地域の皆様が現在使っている生活道兼幹線道は改善される形になるので、そういったところも地域の皆様とお話をして進めていきたいと思っております。

(3) 平成30年度地域振興事業基金(持寄り分)の活用事業について
担当課より説明した。

(以下質問)

(委員)「オート三輪消防車・四輪トラック消防車活用事業」で、イベントに出展するために495千円が計上されていますがこんなにかかるのか。

(地域振興課) イベント会場まで運送する台車と車両本体の修繕にかかります。出展だけではございません。

(委員) カネボウから寄付していただき長野計器で直してもらったが、その時完全に直って放水もできる状況になったと聞いたが、その後まだ修理費がかかるということか。

(滝沢) 修繕含めて維持管理です。それと泊りで行った際の旅費も入っております。

(委員) 3項目について決算報告はあるのか。

(地域振興課) 年度末にします。

(会長) 基金はどういう形で申請すると予算が付くのか。

(センター長) これは申請という形ではなくて、どの事業に持ち寄り基金を財源に充てるかを毎年予算要求の時に丸子地域内の各部署で挙げる事業について担当課と地域振興課で持ち寄り基金を充てることのできるのかどうかを検討して挙げるということです。

(委員)「依田川リバーフロント市民協働事業」の実行委員会経費723千円ということですが、経費がこれだけかかってくるのでしょうか。

(地域振興課) 実行委員の費用弁償、芝生広場の草刈機の燃料代などが入っております。

(4) 分科会の担当委員について

事務局より、事前に提出された希望を基に、前期からの継続委員には分科会の継続性から留任し各分科会の委員を決めた案であることを説明し、承認を得た。

(質疑・応答なし)

5 その他

(1) 次回以降の会議日程(予定)について

第4回 7月24日(火) 午後1時30分 丸子地域自治センター 4階講堂

第5回 8月28日(火) 午後1時30分 丸子地域自治センター 4階講堂
第6回 9月26日(水) 午後1時30分 丸子地域自治センター 4階講堂

6 閉 会

【分科会の開催】 各30分程度で実施】

子育て支援・福祉分科会	3階	第2会議室
産業・まちづくり分科会	3階	第3会議室
公共交通分科会	2階	第5会議室